

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎として埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターに搬入された検体は、2008年30検体、2009年20検体でした。2008年のウイルス検出状況は、ノロウイルスが9件と最も多く、次いでロタウイルス4件、サポウイルス、アストロウイルスがそれぞれ1件でした。一方、2009年は、ノロウイルスとロタウイルスが各4件検出されたほか、アデノウイルスが2件、サポウイルスが1件検出されました(表1)。

表1 2008・2009年のウイルス月別検出状況(感染性胃腸炎)

検出ウイルス	年	検出月												年計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ノロウイルス	08	1		1			1				2	1	3	9
	09	1		2	1									4
サポウイルス	08				1									1
	09				1									1
アストロウイルス	08						1							1
	09													-
ロタウイルス	08		1	3										4
	09		1	1	2									4
アデノウイルス	08													-
	09			1		1								2

例年冬季には、ノロウイルスを原因とする集団食中毒の発生が多数報告されています。しかし、五類定点把握の感染性胃腸炎患者の検体から検出されるウイルスは、ノロウイルスが多いものの多様であるため、病原体の動向を把握する必要があると考えられます。

2010年に入り感染性胃腸炎の報告患者数は増加し、前年までの流行と異なる傾向が認められます(図1)。起因ウイルスの動向を把握するためにも病原体定点の先生方には、引き続き検体採取に御協力をお願いいたします。

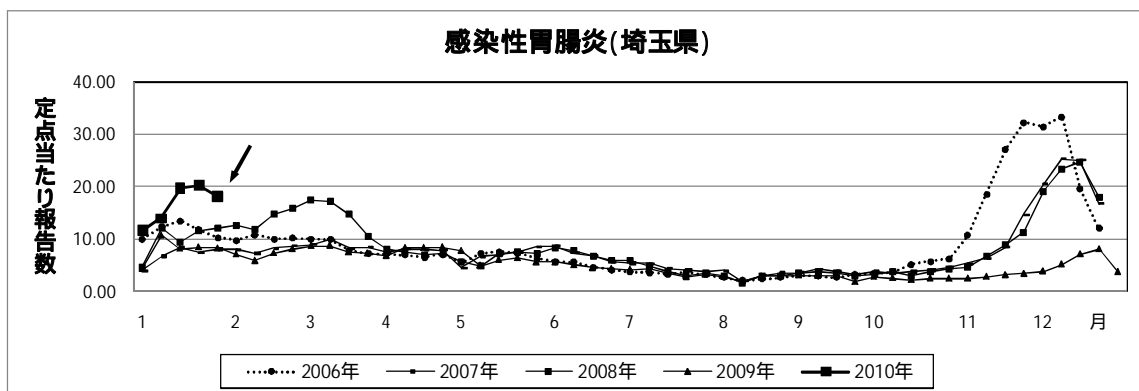


図1 定点当たり報告数(感染性胃腸炎：埼玉県)